

飼料用米として利用できる 「つぶゆたか」(岩南 29 号)および「つぶみのり」(岩手 85 号)の施肥法

【1 成果概要】

飼料用米として利用できる水稲「つぶゆたか」(岩南 29 号)および「つぶみのり」(岩手 85 号)を開発しました。粗玄米収量で 750kg/10a 確保を目標とする施肥法は次のとおりです。

「つぶゆたか」(岩南 29 号)の施肥法は、窒素成分で基肥は「ひとめぼれ」より 2~3kg/10a 多い 8~9kg/10a とし、6 月中旬頃の分けつ期と幼穂形成期にそれぞれ 2kg/10a 追肥します。

表 1 「つぶゆたか」(岩南 29 号)の施肥法と評価(平成 16,17,20 年、農業研究センター)

基肥	窒素施肥量(kg/10a)			粗玄米収量 (kg/10a)	m ² 穂数 (本)	倒伏 (0~5)	評価	概 評
	分けつ 期	幼穂 形成期	減数 分裂期					
6		2		728	357	0	×	穂数不足の危険
6		2	2	775	336	0		穂数不足の危険
9		2		733	377	7.1	×	穂数不足の危険
9	2	2		766	402	0.5		

(「評価」の凡例) : おすすめ事例、×: 心配事例、 : 中間

「つぶみのり」(岩手 85 号)の施肥法は、窒素成分で、基肥は「あきたこまち」より多い 6~9kg/10a とし、籾数確保のため幼穂形成期追肥 2kg/10a は必ず実施します。倒伏を回避するため、幼穂形成期以前の追肥は控えます。

表 2 「つぶみのり」(岩手 85 号)の施肥法と評価(平成 20 年、東北農業研究所(軽米町))

基肥	窒素施肥量(kg/10a)		粗玄米収量 (kg/10a)	倒伏 (0~5)	評価	概 評
	幼穂形成期	穂揃期				
6	2		813	0.4		
8	2		805	0.4		
9	3		817	1.3		倒伏の危険
9	3	3	839	2.2	×	倒伏の危険

(「評価」の凡例) : おすすめ事例、×: 心配事例、 : 中間

【2 効果】

「つぶゆたか」(岩南 29 号)および「つぶみのり」(岩手 85 号)は基肥を増やし追肥をすることで、安定的に多収が得られます。

【3 留意事項】

- 1 「つぶみのり」(岩手 85 号)は倒伏防止のため、十分に中干しを実施します。
- 2 いもち防除は通常どおり行います。

【4 適応対象】

- 1 地帯 (1)「つぶゆたか」(岩南 29 号): 盛岡以南の北上川流域標高 200m 以下
(2)「つぶみのり」(岩手 85 号): 「いわてっこ」および「あきたこまち」作付け地帯
- 2 対象者 栽培指導者